

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)


取り組んでいきたい項目

事業所名：グループホームわかば

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	文書として明示してあるが、わかり易いように一言でユニットごとに決めてある。わかばは「まごころ」を伝える取り組みをしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティング及び日々日常的に、職員にわかり易い言葉で話している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関の壁(目立つ所)・ホールに額に入れて掲げている。また運営推進会議の場でも説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	ホーム前は小学生の通学路となっており、散歩の際に会話をしている。また、菜園で収穫したジャガイモを近隣住居へ提供し、お礼にコピー用紙を頂いた。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との付き合いができるよう、本年度より自治会への加入にて地域の情報や行事情報を提供してもらった。また、夏祭りの際は回覧板にて案内を知らせた。	

事業所名: グループホームわかば

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○	いつも同じ時間帯で開催せずに、多様な時間帯を設定して、多くの家族に参加してもらえる努力を始めた。 (アンケートの実施)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		

事業所名: グループホームわかば

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○	適正な介護職員の配置が出来るよう、介護保険法の改正が望まれる。(介護職員の賃金改定)

事業所名: グループホームわかば

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	地域の各グループホームとの連携を図っていきたい。 (当グループホーム管理者が主体となり、年に何回か集まり意見交換や学習会を行っていく予定)
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

事業所名: グループホームわかば

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状態をまず関係へ確認しておき、管理者・チーフ・計画担当者・スタッフ・とのチーム全体で対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までに要望を伺い、見学をしていただいている。また、可能であれば併設のデイサービスへ通所していただき馴染めるような環境作りを行っている。	○	介護保険法にて試験的な入居が出来ると良い。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員が多いので、料理の作り方・裁縫・踊り・昔の歌・昔の習慣・風習などを教えて頂きながら、一緒に季節の行事の準備や家事などを行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	計画を作成する時は、家族とも相談し、意向を取り入れている。病院受診や外出を可能な範囲で行って頂き少しでも一緒にいる時間を勧めている。	○	お誕生日会や行事の際の参加が減っている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	朝夕、ご家族がインスリンを注射をしに来られたり、また別のご家族も週に何回か定期的に血糖値を測りに来られている。事前の連絡により、一緒に食事を楽しむことも、宿泊することもでき、気軽に訪れやすい雰囲気である。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族や知人と馴染みの美容院に行くなどしている方や、ご家族と定期的に別荘に行かれる方もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	概ね出来ている。援助が必要な入居者に対して、手を差し伸べてくれる入居者もおおり、お互い支え合う場面も時々見受けられる。		

事業所名: グループホームわかば

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		○	退所後は、施設や病院に入院が殆どで今迄に事例がない。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レクリエーション・畑での園芸や季節の行事(クリスマス会など)・野外活動(ピクニック)などを通じ、感情表現できるように取り組んでいる。また、外部講師を招き、定期的に音楽療法を取り入れている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入所後のアセスメントで、生活歴により趣味や経験などを引き出している。	○	これまでの背景・職歴・嗜好等を関係者から情報を再度細かく収集し更に良くなるように取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的なカンファレンスや各勤務の交代時に引継ぎを行いスタッフ間状況の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各担当者と計画担当者が主体となり計画を行っている。毎月のミーティング・ケアカンファレンスを通し多くの職員で意見や情報を交換する機会をふやす。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度モニタリングを行っている。介護計画書の内容を把握した確認サインをする様になっている。		

事業所名: グループホームわかば

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引継ぎノートの活用。 全職員の意見を取り入れて作成し定期的に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊の要望に対しては自由に支援している。利用者の状況に応じては、デイサービスの機会浴を利用することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今年度より地区自治会へ加入した。民生委員が運営推進会議のメンバーとして、毎回会出席して意見交換を行っている。年2回の消防署員を招き、避難訓練を実地しており、利用者も実際に消防訓練に参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	受診時に介護タクシーを利用される方もいる。	○	一度入居すると、以前のケアマネジャーとの関係は薄くなってしまっている。また、入居後は他のサービスを利用することは殆どない。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に地域包括支援センターにて、勉強会があり、職員が参加して情報交換をしている。また、運営推進会議にもセンターの職員の参加が毎回あり助言を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する時は、ご家族に同意を得た上で情報提供書を用意している。	○	夜間や休日の対応を確立して欲しい。(主治医が不在時に認知症という事で断られた事もある)

事業所名: グループホームわかば

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な受診やインフルエンザワクチンの勧めを行った。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師にて、24時間体制で入居者の健康チェック・相談を受け医療連携を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療相談のワーカーや関係者へ連絡を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針をご家族に説明し確認を得ている。また、職員にも学習会にて説明がしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	看取りについては、方向性は見えてきているが、まだ事例がなく実践出来ていない。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な時間をとって説明をし、場合によっては相談に応じ、次の生活の場を調整している。		

事業所名: グループホームわかば

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼び名や言葉使い等をミーティングの際に管理者から伝達している。各フロア毎に月間目標として取り上げた月もあった。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	着替え・買い物・お誕生会の食事等、なるべく入居者が選びやすいように配慮している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マイペースで、食事人も人によっては、お部屋で取られる方がいたり、時間もずらして取ることが出来る。体調に合わせ、ご家族の持参した食事をされる事もある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族と馴染みの店に行ったり、移動美容室を利用するなど希望に合わせている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	参加(準備・片付け)しやすい様に、持ち運びの良いさまざまな食器を取り揃えている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	クリスマス会・敬老会などの時にお酒が出るが、日常的には難しい。	○ 有病者や健康上制約のある方々が多く、個々に合わせる支援は出来てない。

事業所名: グループホームわかば

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	健康チェックを通して、生活のリズムを把握し、声かけにて失敗がないような支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は、大体決まっているが、それが絶対ではなくご本人の希望も取り入れる事はしている。回数は、特に決まっていない。	○	スタッフ不足で行えていないが、今後は夜間の入浴が行えるよに行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく薬に頼ることは、していない。 大体の一日の流れはあるものの、個々のリズムで生活している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る事と出来ない事とを利用者と職員で話し、見極めて洗濯物を干したり、畳んだりまたは、お掃除ではたきかけたり、くるくるワイパーで床を拭いて頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご希望により、多少の金銭を所持している方もいる。スタッフやご家族と外出時に買い物を行う方もいる。	○	おこづかいと言う形は、とっていない。基本的には、全員が自由に所持は出来ないが、ご本人の買いたい物は買って後日ホームの方から毎月立て替え金として報告している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候に応じて外の菜園やショッピングセンターへ散歩へ出かけたり、行事の際に外出する機会はある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年度は、夢庵へ外食をしに出かけた。毎週娘さんと外食したり、月に2回息外泊にて子供の自宅や年2~3回別荘にいくなど自由に出られる支援を行っている。		

事業所名: グループホームわかば

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が申し出れば、フロアーにも電話があるので家族に電話する事は出来る。またその支援(こちらから番号を教える)も行っている。字が書ける方は、家族に手紙や年賀状を出している。(子供が海外におりエアメールをやり取りしている方もいる)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面接時間は特に決めておらず、いつでも来所出来る様になっている。時には一緒に食事されるご家族もいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会でも学び具体的な行為と、それがもたらす弊害を1枚の紙にまとめわかりやすく示している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はない。玄関およびリビングに入る戸にも鍵はかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は1時間おきに居室を見回り、夜間・日中と入居者の様子の分かる個別日誌を書き、勤務交代時には口頭及び引継ぎノートを活用した申し送りがあり職員全員で情報共有している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は、職員室の専用冷蔵庫やケースで保管している。消毒薬・漂白剤・予備の洗剤は施錠できる物入れで保管している。包丁は高めの戸棚で管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	学習会でも取り組みまた、事故報告書の書式もあり気が付いたことは、積極的に記録している。状況・原因・分析の話し合いを行い、再発防止に活用している。火災防止は、年に2回防災設備訓練を行っている。		

事業所名: グループホームわかば

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルが出来ており、直ぐ確認出来るように目に付く所に貼ってある。また、管理者への報告・連絡・相談を徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施して、職員、利用者とも日ごろから注意をしている。今年度より自治会へ加入した事で、地元の消防団への協力を依頼してある。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	異常が起きないように日々健康チェックを個別の記録に残し、ご家族からの情報は、利用者情報書に記載され職員は、疾病等理解をして介護をしている。さらに、カンファレンスの機会を通して情報共有をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異常の早期発見が出来るように、起床時・入浴前バイタルチェックを行うまた、入浴時に全身の観察するよう心がけている。また、異常を発見した時は、管理者(看護師)に連絡、相談し、対応を行っている。またその状況は介護日誌に記録している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当を決め、医師の指示通りに服薬出来るように支援している。薬の知識・作用・副作用については、管理者よりその都度行われている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方に対しては、サービス計画に盛り込みながら、食事量や運動・下剤の調整による対処をしている。便が硬く出ない時は、管理者が対応し処置またはご家族へ連絡し受診を勧めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。夜間入れ歯は、お預かりし職員が洗浄している。また、歯科衛生士による訪問指導を受ける機会もあり、定期的に口腔内の健康を把握している。必要時には、理事が歯科医師にて、緊急の治療の支援も行っている。		

事業所名: グループホームわかば

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1度は体重を測定し、食事量に関しても健康チェック表に記録している。そして、運動量や食事量の検討・水分量の検討も個々に行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあり、職員に周知している。利用者には、ご家族にお話し、持病のため受けることが出来ない方を除き、予防接種を勧めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材業者から受け入れメニューに沿って職員が調理している。、時には、ホームの畑で取れた野菜を収穫して、献立に利用する事もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい表札を、手作りで掲げてある。一目で玄関と分かる様うにしてある。また、周りにはプランターを置き、段差に気をつける工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の生活の中で作った作品や、外出時に写した写真を飾り、それを眺められる様にしている。また、夜間は光を落として会話にも気をつけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルとチェアだけでなくソファが置かれ、気の合った方同士で会話をされている。		

事業所名: グループホームわかば

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が置かれ、調度品・家族の写真など飾ることの出来る棚もあり、各利用者毎に工夫されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の意向を聞き、冷暖房の温度管理や加湿器なども使用しながら、調節を行っている。1日2回窓を開け換気に注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体に適した家具(椅子)の用意をしている。また廊下や壁には、出来る限り手摺りをつけている。	○	各居室に手摺を設置していく予定。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を起こしそうな所には、あらかじめカレンダーや絵、または作品を飾ってある。死角があり、入居者一人一人がどこにいるか把握できない時もあるが、自分の部屋が判り易いように表札(手作り)を設置している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の南側には、ホームの自家菜園(花壇・畑)があり、自由に水撒きが出来る。また、外の洗濯干し場に洗濯物を干しに行くことが出来る。		

事業所名：グループホームわかば

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

創設者（理事）が歯科医にて口腔ケアの徹底と施設長が看護師にて毎日職員の情報を基に健康管理に留意している。